

2014年度

環境レポート

対象期間 2014年1月～2014年12月

作成日：2015年1月31日

更新日：



□ごあいさつ

当社はこれまで各種自動省力機械を始め、様々な産業機械の設計・製作に従事して参りました。これまでに蓄積したノウハウを駆使して、『独自の発想』と『確かな技術』でお客様の信頼にお応えしております。今後とも常に高い目標を掲げ最先端の技術に挑戦し、新しい時代を切り開くパートナーとして、皆様に貢献できますよう努力して参りますとともに、社員一人ひとりに環境にやさしい取り組みを根付かせ、それが家族や地域社会に広がりを持つように活動を続けていきます。

代表取締役社長 宮原 秀樹

環境方針

- 1 事業活動の全ての領域で、省エネルギーの推進、排出物の減量化、資源の有効利用などを行い、環境保全に貢献します。
- 2 省エネルギーなど、環境負荷を考慮した技術開発に努めます。
- 3 省エネルギー、省資源、再生資源利用商品など、環境負に配慮した物品の調達に努めます。
- 4 保全の理解を深めるため、社内外の関係者を巻き込んで環境管理活動を推進します。
- 5 国や地域において定められた法律や規則を遵守すると共に、一層の継続的改善と維持管理に努めます。

制定日：2003年5月26日

改定日：2013年9月15日

代表取締役社長 宮原 秀樹

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 フォーミット
代表取締役社長 宮原 秀樹
- (2) 所在地
大阪府豊中市原田元町2-21-4
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 代表取締役社長 宮原 秀樹
担当者
- (4) 事業内容
自動制御機器の設計、製作、販売
- (5) 事業の規模
社員数 1名
事務所延床面積 50㎡
- (6) 事業年度 1月～12月

TEL : 06-6845-4310

FAX : 06-6842-3510

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 : 株式会社 フォーミット

対象外 : なし

活動 : 自動制御機器の設計、製作、販売

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2012年	2013年	2014年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,727	3,472	2,996
廃棄物排出量	kg	5	6	6
水使用量	m ³	※-	※-	※-

※電力の二酸化炭素排出係数： 0.378 kg-CO₂/kWh

※2010年3月より事業所使用面積が568m²から50m²に縮小になったため、目標基準値を大幅に見直しました
上記理由により本年度から環境負荷の計測基準値を新たに設定しました

※2010年3月より水使用量は事務所移転のため共用メーターになり把握不可となりました

□環境目標・実績

項目	年度	基準値 (基準年度)	2014年		2015年	2016年
			(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素削減	kg-CO ₂	4,061	3,980	2,137	3,939	3,899
	基準年比	2010年	98%	53%	97%	96%
自動車燃料の二酸化炭素削減	kg-CO ₂	1,590	1,558	859	1,542	1,526
	基準年比	2009年	98%	54%	97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	5,651	5,538	2,996	5,481	5,425
廃棄物量の削減	kg	9.2	9.0	6.3	8.9	8.8
	基準年比	2011年	98%	68%	97%	96%
グリーン購入	%	全購入金額に対する比率	75%	100%	75%	75%
環境負荷を考慮した技術開発			行動目標			

※水道の個別メーターがないため、行動目標とします

□環境活動計画と結果及びその評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

環境活動計画	結果	継続 /変更	評価、次年度の取組内容
電力の二酸化炭素削減			
数値目標	○		
・クールビズ、ウォームビズ運動の推進	◎	継続	年度目標値に対し大幅に削減し目標達成できた。P C稼働率低下等の影響もあるが、徹底したクールビズ/ウォームビズ運動、並びに電化製品未使用時の電源off活動が慣行できた。次年度は目標値の見直しを実施し、更なる省エネルギーを達成するための活動計画を展開し、経営改善に役立てたい。
・電化製品未使用時の電源off	○	継続	
・空調適温化/冷房28℃以上, 暖房20℃以下	◎	継続	
・使用電力量の案内で節電意識向上	△	変更	
自動車燃料の二酸化炭素削減			
数値目標	○		
・遠方の出張は公共の移動を呼びかけ	○	継続	人員変動(減)の影響もあり目標値を大幅に下回った。次年度は目標値の見直しを実施した上で、引き続き更なる公共機関の利用と経済運行の徹底を遂行し、活動計画の継続を実施していきたい。
・経済速度での走行	◎	継続	
・事前経路確認で無駄な走行を無くす	◎	継続	
廃棄物量の削減			
数値目標	○		
・関係先に簡易梱包やカタログ回収を依頼	○	継続	年度目標値に対し約70%で達成できた。廃棄物削減に対する意識が浸透している。また循環資源物の適正廃棄により、リサイクル率約80%を達成しており、資源有効利用にも貢献できている。今後も継続した取組みを実施していく。
・リユースやリサイクルの利用頻度を向上	○	継続	
・産業廃棄物の適正廃棄	○	継続	
・3S(整理・整頓・清掃)活動の向上	○	継続	
・FAX受信のペーパーレス化	◎	継続	
水道水の削減			
	—		
・節水運動を引き続き呼びかける	○		共同管理であるため数値測定は不能。行動目標として全員に節水意識を高める。
グリーン購入			
数値目標	○		
・最新のカatalogを参考に環境ラベル認定等製品を優先的に確認購入する	○	継続	適用品目種の採用が慣行できており、今後も継続して取組むよう経営努力していきたい。
環境負荷を考慮した技術開発			
・省エネ機器の選定による設計	○	継続	今後も省エネ対応の機器見直し提案を積極的に行い、経営改善に役立てていきたいと思ひます。
・省力化のシステム構築を推進	○	継続	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物
グリーン購入法	購入物品
自動車リサイクル法	自家用車

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、環境関連の違反、訴訟等これまでありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

省エネルギー、資源有効利用に関する取組みは、PDCAサイクルを遵守し的確に遂行できており、現状維持を図る。環境負荷を考慮した技術開発に関しては、新たな方向性を見出し継承運用したい。

□環境活動の紹介

1.環境負荷技術開発について

環境方針にも記載していますが、弊社では環境負荷を考慮した技術開発に努めています。本年度のテーマの一つに“省エネモード運転となるソフトプログラムの提供”があり、ユーザに提案し採択されるようになってきました。その一例をご紹介します。

製造ラインに於いて稼働率を上げることは重要課題です。しかし機種変更による段取り替え作業等で、装置はどうしても待機状態もしくは停止状態が発生します。待機状態の時は装置が稼働状態（運転状態）となっていますので、電気消費量に加算されてしまいます。弊社では装置がこのような待機状態となった場合、出来る限り電気容量を抑える装置運転を心がけて設計しています。

待機状態となった時はエコ運転モードに切り替わり、生産開始時にはすぐに生産可能な状態に復帰させるような装置運転制御設計を提案、実施しています。

2.環境活動計画の取組みについて

2-1.資源有効利用の促進

- ・廃棄物を循環資源廃棄物と一般廃棄物とに分別し、集計処理しています。



- ・基本的にはペーパーレス運動に取り込んでいますが、コピーする場合は裏紙コピー、両面コピーを徹底しています。



2-2. 資源有効利用の促進

水道水の削減に対し、水使用量は共同管理であるため数値管理ができていませんが節水運動を展開し日々節水に努めています。

